

## シュローダー・グローバル投資家意識調査 調査結果報告

シュローダー・グループは、個人投資家の投資動向や投資意識を把握することを目的に、第4回「グローバル投資家意識調査」を実施しました。

本調査は、欧州、米国、日本、その他アジアなど世界 23 カ国において、10,000 ユーロ（約 140 万円\*）相当以上の投資可能な資産を保有し、新規投資を予定している 18 歳以上の個人投資家 15,749 人（うち日本 1,005 人）を対象に、インターネット経由で実施したものです。今回の調査は、ブラジル、ロシア、インド、中国の 4 カ国が新たに調査対象に加わり、これまで実施した中で最大規模となりました。

主な調査結果の要約は次項の通りです。

### 世界的に投資意欲は緩やかに改善

世界的に景気回復期待が高まる中、2013 年を上回る半数以上の投資家が 2014 年の投資成果に対して昨年よりも「期待している」と回答し、総じて投資家の景況感は改善傾向にあることが、本調査において明らかとなりました。また、日本では約 9 割の投資家が今年 200 万円以上の投資を予定していると回答しており、アベノミクス効果への期待などから引き続き投資に前向きな姿勢が示されました。（P3、「2014 年の予定投資総額」参照）

### 懸念材料は「増税」など身近な要因にシフト

昨年グローバルの投資家から最も多く挙げられた「欧州債務危機」や「政治・政策の不確実性」などマクロ経済要因への懸念は大きく後退しました。一方、特に日本では「増税」、「収入の伸び悩み」など、より身近な問題に対する懸念が増加していることが浮き彫りとなりました。また、政府がデフレ脱却を掲げる中、投資家のインフレに対する意識は依然として低く、景気回復に伴う物価上昇などに備えた資産運用が今後の課題になると考えます。（P6、「今後の投資における懸念要因」参照）

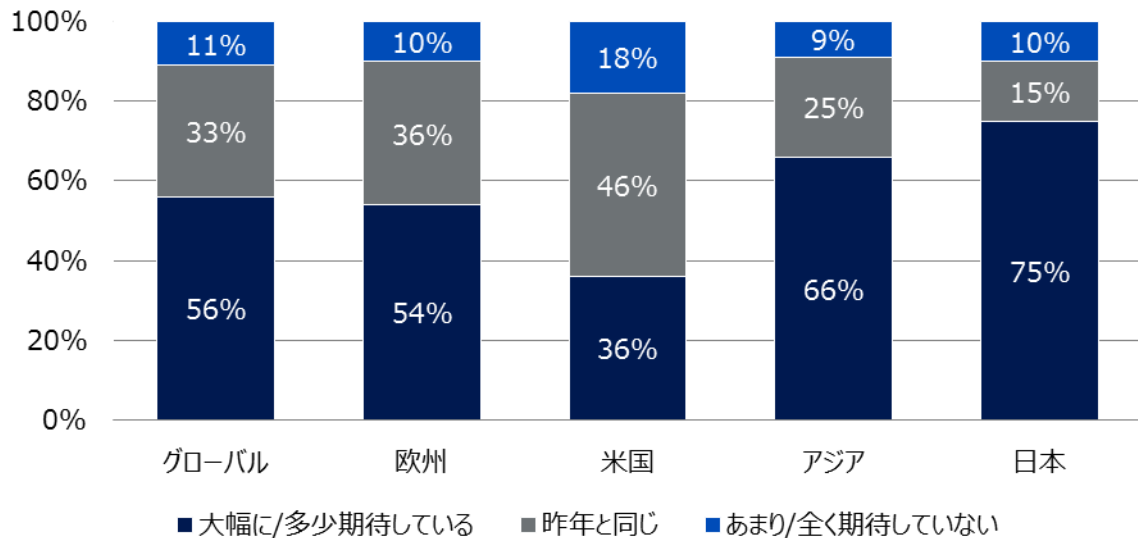
### 「資産配分おまかせ型」の投資信託に引き続き高い関心

昨年に続き日本では 60%の投資家が「資産配分おまかせ型（アセットアロケーション型）」の投資信託に高い関心を寄せており、また「安定的な収益」を重視する傾向が依然として根強い結果となりました。今後、少額投資非課税制度（NISA）を活用した投資の拡大が見込まれる中、こうした複数の資産に投資し、その投資比率を柔軟に変更する投資信託は、投資先の一つの選択肢としてさらに注目が高まると考えます。（P7、「資産配分おまかせ型投資信託へのニーズ」参照）

2014 年の調査結果では、世界的に見て投資環境に対する改善期待が高まっていることが明らかとなりました。こうした市場への期待感を背景に、特に 2014 年は前年より高い投資成果が得られると考える日本の投資家が 76%と、23 カ国中 3 番目に多い結果となりました。

### グローバル：2014 年に期待する投資成果（対前年比）

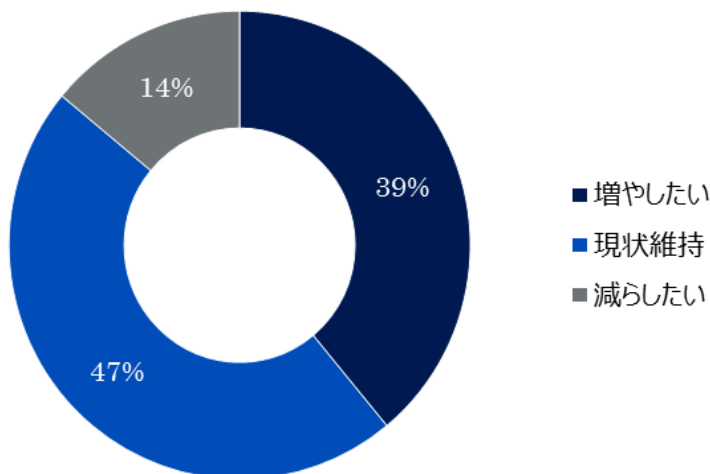
昨年に比べて、2014 年ほどの程度投資成果が期待できると思われませんか？



投資金額も昨年と同等またはそれ以上を予定している投資家が 90%と大半を占め、引き続き投資に対して前向きな姿勢がみてとれます。

### 日本：今後 1 年間における投資金額の予定増減額

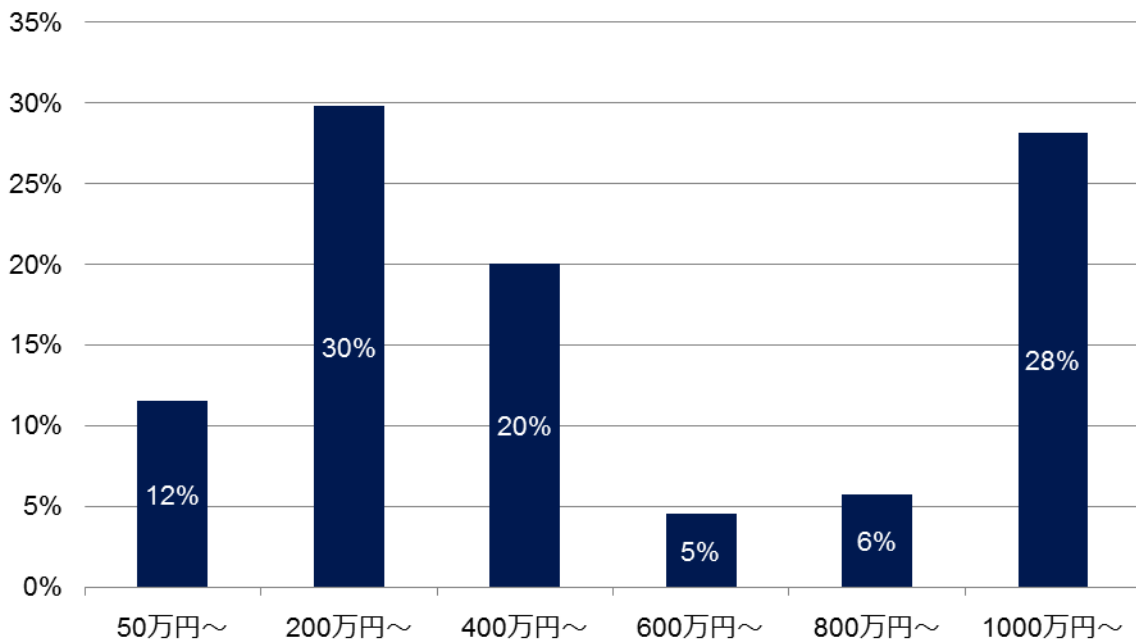
現在保有している金融資産の投資額を、今後 1 年間でどのように変更する予定ですか？



2014年に予定している投資金額は200万円～400万円未満、あるいは1,000万円以上と回答した日本の投資家は、3割近くに上りました。また、全体の平均投資金額は約800万円となり、比較的高い水準であることが明らかとなりました。

### 日本：2014年の予定投資総額

2014年に株式、債券、投資信託などを通じて投資を予定している金額について教えてください。（現在保有している投資商品に加えて、再投資を予定しているものや、新しく予定している投資先を含む）

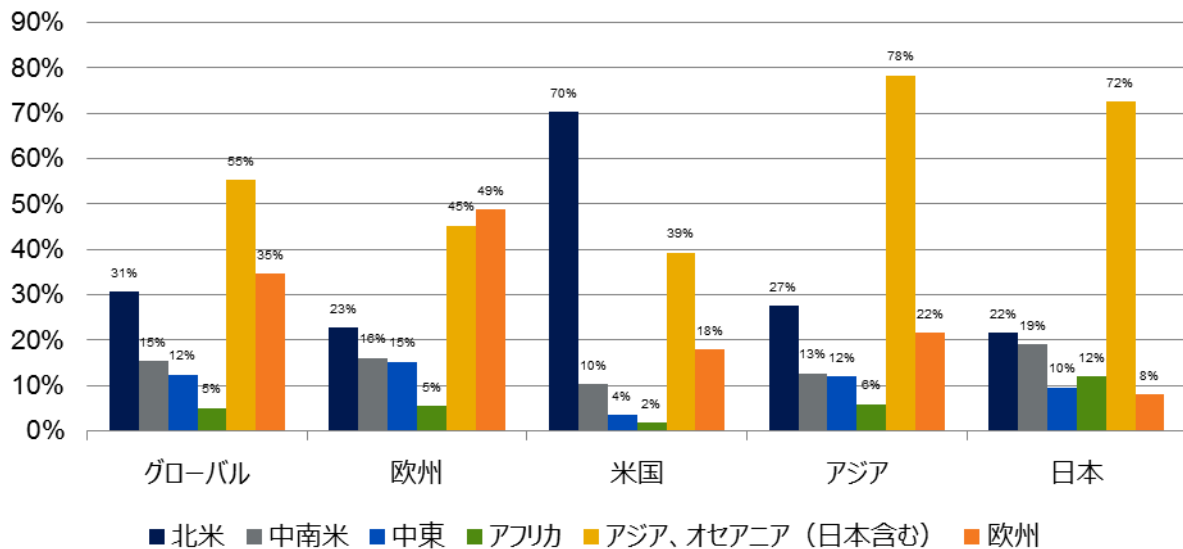


## 2014 年に有望視している投資地域

世界の投資家が2014年の投資先として最も有望視している地域は引き続きアジア、オセアニア（55%）でした。また、シェール革命や景気回復などのプラス要因を受け、北米に対する期待も昨年の18%から31%に増加しました。

### グローバル：2014年に検討している投資地域

今後1年間どの地域に投資することで最も大きな収益が見込めると考えられますか？投資を検討している全ての地域を選択してください。（複数回答）



## 2014 年に有望視している投資先

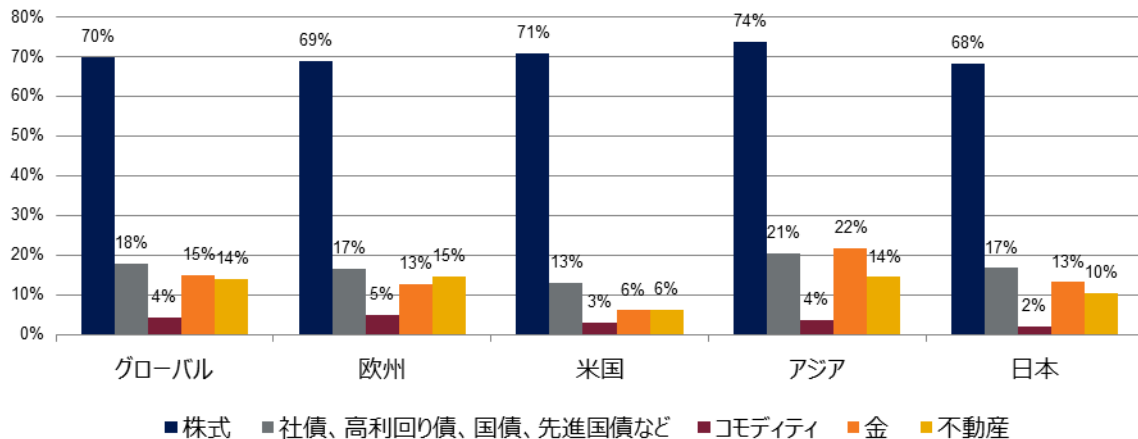
世界の投資家が 2014 年の投資先として最も有望視している資産クラスは「株式」(70%) となりました。

日本においても株式を選好する投資家の割合は 68%と非常に高く、そのうち 28%が「日本株」と回答しており、引き続き投資家の「日本株」への期待は高いものと推察されます。

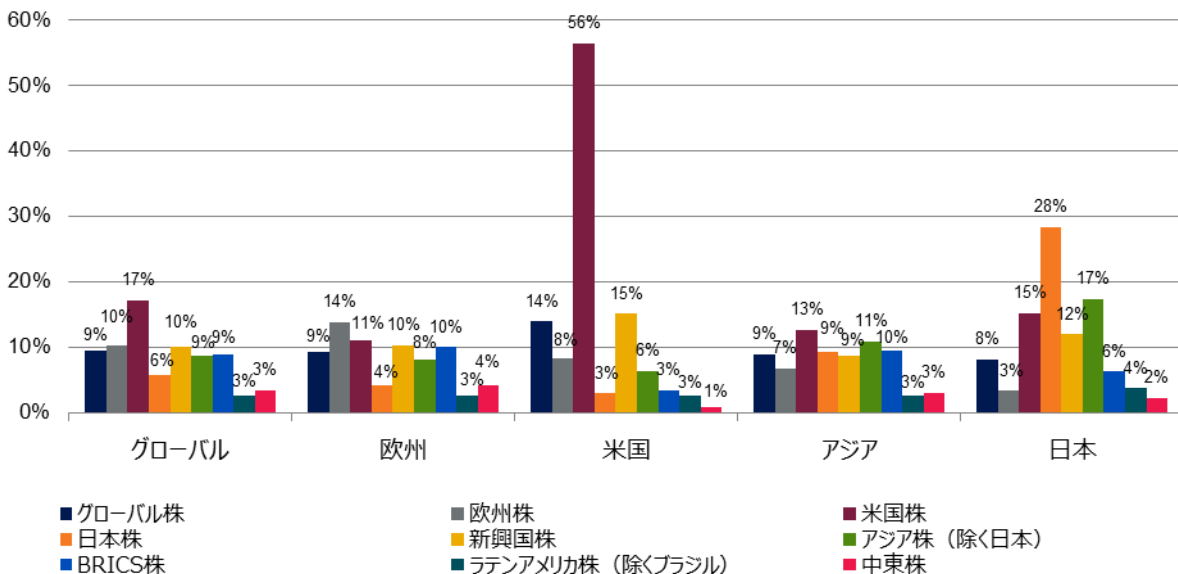
### グローバル：2014 年に検討している投資先

今後 1 年間どの資産クラスに投資することで最も大きな収益を見込めるとお考えですか？ 投資を検討している全ての資産クラスを選択してください。(複数回答)

#### ■ 資産



#### ■ 株式の内訳



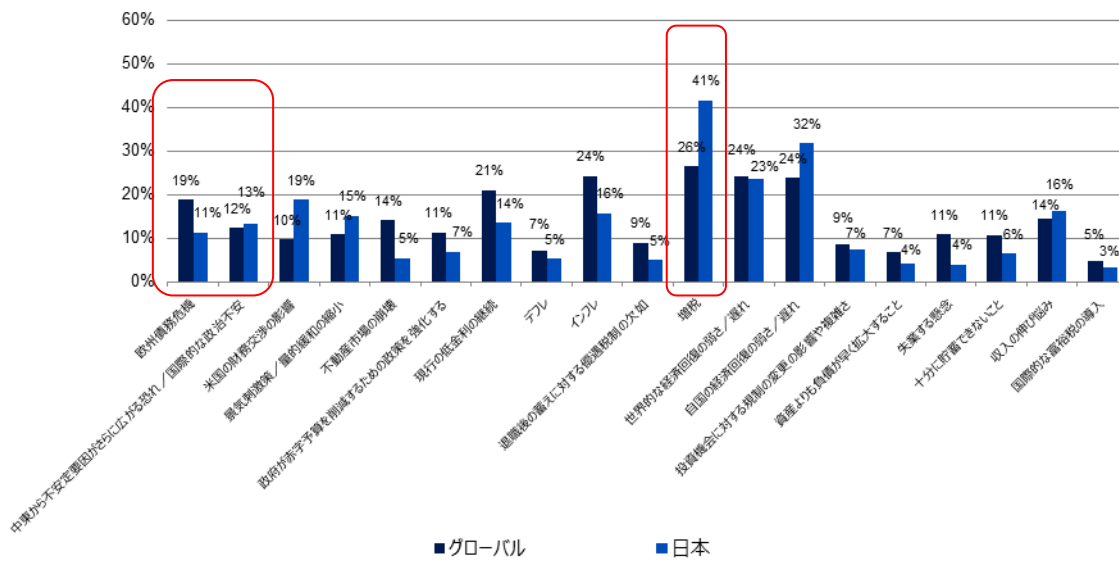
## 今後の投資における懸念要因

昨年と比べて世界的に総じてマクロ経済要因に対する懸念が和らいでいることが示されました。一方、日本では4月の消費税増税を巡る経済および金融市場への影響や先行き不透明感から、「増税」に対する懸念が最も高い水準となりました。また、インフレに対する意識は16%と依然として低い結果となりました。

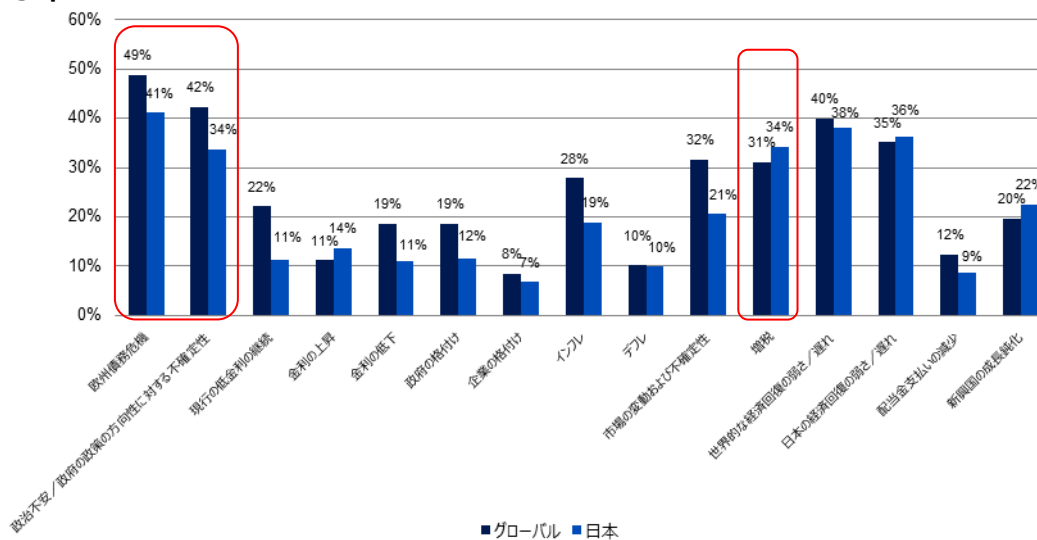
### グローバル：今後の投資にあたっての懸念要因

今後投資する上で、次のどの要因を懸念していますか？

#### ■ 2014年



#### ■ 2013年

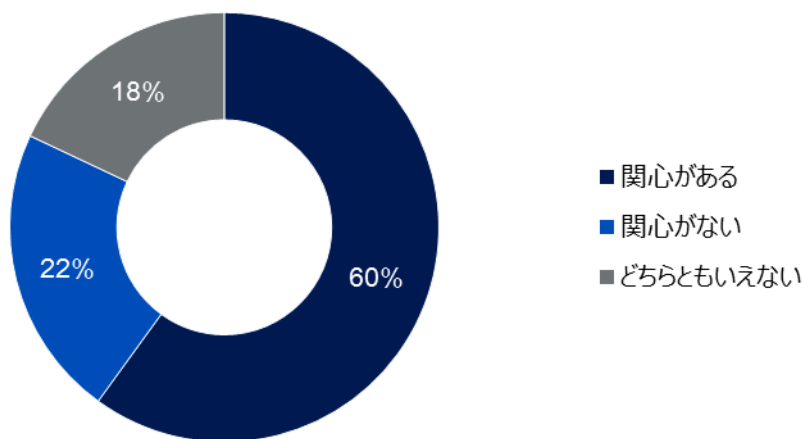


## 「資産配分おまかせ型」投資信託へのニーズ

複数の資産に投資を行い、市場環境に応じてその投資比率を柔軟に調整する「資産配分おまかせ型（アセットアロケーション型）」の投資信託に対して関心があると回答者は 60%に上りました。長期投資を目標とするうえで、投資対象のみならず、投資タイミングを見計らいながら配分を変更することは個人投資家にとって困難であるため、資産配分を資産運用の専門家にお任せできる投資信託に対するニーズが高まっているとみられます。

### 日本：「資産配分おまかせ型」投資信託への関心度

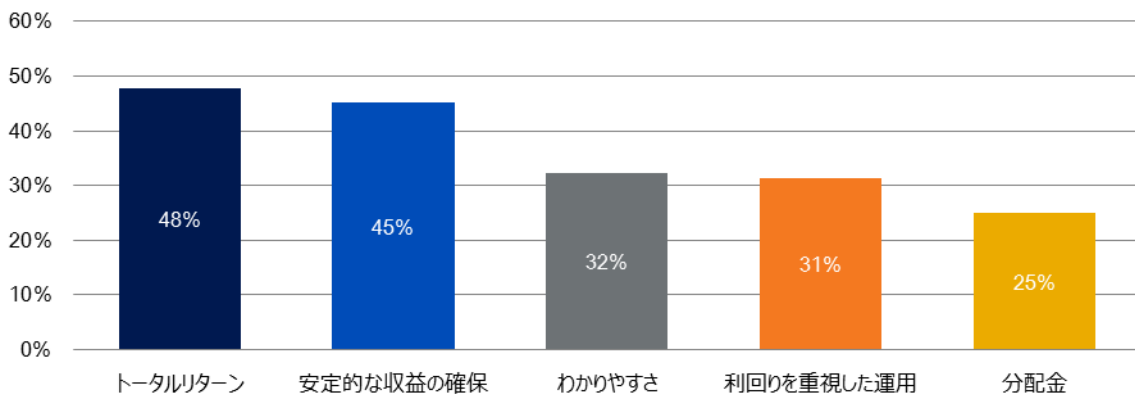
あらかじめ決められた運用目標に基づき、市場環境に応じて柔軟に資産配分比率を調整してくれる投資信託について、どのようにお感じになりますか？



また、資産配分おまかせ型の投資信託を検討する際に重視する点を尋ねたところ、①トータル・リターン（48%）、②安定的な収益の獲得（45%）、③わかりやすさ（32%）、④利回りを重視した運用（31%）、⑤分配金（25%）が回答として最も多いという結果が得られました。

### 日本：資産配分おまかせ型の投資信託を検討する際の重視ポイント

「資産配分おまかせ型」投資信託を検討するにあたって、どのようなポイントを重視されますか？（複数回答）



## 調査概要

回答者数：グローバル 15,749 人／ 日本 1,005 人（男性 666 人、女性 339 人）

年齢構成（日本）：

18～24 歳	8 人
25～34 歳	101 人
35～44 歳	209 人
45～54 歳	322 人
55～64 歳	262 人
65 歳～	103 人

地域構成（日本）：

北海道	48 人
東北地方	41 人
関東地方	428 人
中部、北陸地方	159 人
近畿地方	189 人
中国地方	58 人
四国地方	29 人
九州、沖縄地方	53 人

調査実施：Research Plus

調査時期：2014 年 1 月 2 日（火）～1 月 31 日（金）

### このリリースに関するお問合せ先：

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社

マーケティング部 本多

TEL: 03-5293-1511

本資料は、シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社で作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。本資料は作成時点における作成元が信頼できると判断された情報に基づいて作成されたものですが、弊社がその情報の正確性、信頼性を保証するものではありません。外部への転用は固くお断りいたします。

シュローダー・インベストメント・マネジメント株式会社 金融商品取引業者 関東財務局長（金商）第90号

加入協会 一般社団法人 日本投資顧問業協会 一般社団法人 投資信託協会